聖書日課『からし種』2024.1.28－2.4

1月28日 （日） 詩編 75編	**「わたしは必ず時を選び、公平な裁きを行う」（3節）、「わたしは驕（おご）る者たちに、驕（おご）るなと言おう。逆らう者に言おう。角をそびやかすなと」（5節）。**「角」は栄誉を意味する。神が目の前におられることを忘れ、自らの頭に「角をそびやかしているわたし」がいないだろうか。「角を高く上げる」（11節）のは「人ではなく神である」ことを覚える主の日とされて。
29日 （月） 詩編 76編	**「神は弓と火の矢を砕き／盾と剣を、そして戦いを砕かれる」（4節）、「神は裁きを行うために立ち上がり／地の貧しい人をすべて救われる」（10節）。**神は「地の貧しい人たち」が日々強いられている不条理の苦難をみておられる。神は「貧しい人をすべて救う」ために立ち上がり、「戦いを砕かれる」。今日「地の貧しい人たち」の上に、神の御心がなるように。
30日 （火） 詩編 77編	**「（わたしは）あなたの働きをひとつひとつ口ずさみながら／あなたの御業を思いめぐらします」（13節）。**その日の出来事を一喜一憂することで終わり、「神の働きをひとつひとつ口ずさみながら思いめぐらす」ことができていない自分を想う。この詩人は、眠れぬ夜を過ごしながらも神の御業に心向けている。日々、神の恵みを口ずさむ信仰をいただいていきたい。
31日 （水） 詩編 78編	**「しかし、神は憐れみ深く、罪を贖われる。彼らを滅ぼすことなく、繰り返し怒りを静め／憤りを尽くされることはなかった」（38節）。**出エジプトの旅はイスラエルの民の「不信仰」と「反抗」の連続だったが、神は「繰り返し怒りを静め」、約束の地に向かう旅を導き続けられた。今日も、私たちと旅を共にし、恵みの約束に導き続けておられる神の忍耐と祈りを覚えて。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2024.1.28－2.4

2月1日 （木） 詩編 79編	**「わたしたちは弱り果てました。私たちの救いの神よ、わたしたちを助けて／あなたの御名の栄光を輝かせてください」（8－9節）。**「弱り果てました」の言葉に、バビロン捕囚の苦難の只中で信仰的にも肉体的にも疲れ果てた人々の姿が浮かぶ。そんな時、私たちはどうするのだろうか。十字架の主はどんな時にも私たちの只中におられ、天の窓は開いている。
2日 （金） 詩編 80編	**「このぶどうの木を顧みてください」（15節）、「わたしたちはあなたを離れません。命を得させ、御名を呼ばせてください」（19節）。**詩人は、自分たちを、神がエジプトから移して約束の地に植えてくれた「ぶどうの木」に見立てている。農夫である神の手入れなしに「ぶどうの木」は実を結ぶことができない。今日、農夫である神から離れず歩むことができるように。
3日 （土） 詩編 81編	**「わたしが、あなたの神、主。あなたをエジプトの地から導き上った神。口を広く開けよ、わたしはそれを満たそう」（11節）。**赤ん坊が親の手の食べ物を見て口を大きく開ける姿は微笑ましい。人は食べないと生きられない。赤ん坊は命を親から受け取っているのだ。私たちは今日誰から命を受け取るのか。永遠の命に至る食べ物（ヨハネ 6:27）を主から受けて。
4日 （日） 詩編 82編	**「いつまであなたたちは不正に裁き／神に逆らう者の味方をするのか。弱者や孤児のために裁きを行い／苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ」（2－3節）。**神がこのように宣言されたと歌われている。とすれば、戦争はまさに神に逆らう不正な裁き方と言えよう。弱者が死傷し、子どもが親を失い、苦しむ人、乏しい人が軽んじられるからだ。

大井バプテスト教会